

プレミアム付商品券発行事業費の審議

議案第36号 令和2年度鈴鹿市一般会計補正予算（第2号）

「鈴鹿まるごと応援券 すずまる」の発行

○鈴鹿市プレミアム付商品券発行事業費 2億3,000万円

（概要） 新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が解除されたことを受け、市内経済の回復を図るため、市独自の経済対策として、プレミアム付商品券「鈴鹿まるごと応援券 すずまる」を発行しようとするもの。事業の実施に当たっては、鈴鹿商工会議所と協働で事業を進め、1冊7,500円分の商品券をプレミアム率50%の5,000円で販売し、8万冊、総額6億円分の発行を予定している。

質疑

さまざまな選択肢がある中、どのような議論や検討を経てプレミアム付商品券の発行という手法に至ったのか。また、鈴鹿商工会議所との協働事業とのことであるが、政策決定に至るまでにどのような過程を経たのか。

答弁

プレミアム付商品券発行事業は、外出自粛や休業要請などにより疲弊した事業所からの要望を広く受け付けている鈴鹿商工会議所と、市内経済対策が停滞している中、市内での消費を促し、循環を図ることで経済回復につなげたい鈴鹿市の、両者の考えが合致したことにより、協働で実施することとなった。

質疑

桑名市や四日市市の取り組みより遅くなった理由は何か。

答弁

緊急的な経済対策の第1弾として、本市ではまず緊急家賃等給付金などの事業に取り組み、第2弾として、プレミアム付商品券発行事業を実施することとなった。他市が実施する「さきめし券」や「プレミアム付応援食事券」は、いずれも飲食店への支援策であるが、鈴鹿市プレミアム付商品券は、飲食店だけでなく、市内の商業施設やサービス業など多くの事業者への支援策としている。本市経済の活性化を図るため、消費喚起に取り組んでいく。



「鈴鹿まるごと応援券 すずまる」

討論（要旨）

討論は議案に対する賛否の態度、考え方を明らかにするものです。（討論順）

< 議案第36号について >

中西 大輔議員（無所属）

議案第36号に賛成

鈴鹿市プレミアム付商品券について、鈴鹿商工会議所への委託事業ということだが、取扱店舗の決定など、行政が責任を持つところは行政が積極的に動くこと、事務経費について柔軟に対応することを期待する。

新型コロナウイルス感染症対策として、夏季の消費につながるように、安心につながる情報提供や行動の方向性を、市として発信してもらいたい。

商品券の発行目的を達成するには、市職員の消費行動や社会行動も大切と考えるので、積極的な動きに期待して賛成する。

永戸 孝之議員（市民クラブ）

議案第36号に賛成

鈴鹿市プレミアム付商品券の発行について、プレミアム率5割、補正額約2億円は他の近隣市町と比べて好条件で進めるべき。しかし、7月1日から商品券の購入の募集を、8月7日から利用を開始するのは他の市町より2カ月遅い。

四日市市では4月28日からクラウドファンディングの寄付形式（プレミアム率4割）で実施し、5月29日に締め切り、1カ月で約3億円の寄付があった。また近隣市町も対象地域になっており、鈴鹿市が実施するまでに鈴鹿市民も四日市市の企画に寄付し、四日市市の事業者を支援する形になった。急を要する経済支援はどこの自治体よりも早く実施しないと効果は半減する。